

SQL Plus

[Oracle10g Database]

画面コントロール

画面のクリア

```
SQL>clear scr
```

設定系

パラメータの確認

```
SQL>show parameters [パラメータ名]
```

コマンドヘルプ

```
SQL>help index
```

簡易接続

```
connect ユーザー名 / パスワード @ ホスト名 [: リスナーポート ] / サービス名
```

SQL*Plus が文字化け

linux へ ssh 接続して、sqlplus を使用するとき、Del キーや、BackSpace キーを使用すると、文字化け (?) する。

stty コマンドを利用

```
SQL>^H^H^H^H^H   こうなる
```

```
SQL>ho stty erase ^H   BackSpace を押下
```

これで OK

- ・ ftp でも同様

```
ftp> ! stty erase ^H
```

編集系

エディタを変更

```
DEFINE _EDITOR="C:¥Program Files¥sakura¥sakura.exe"
```

上記はログアウトすると消えてしまうので、

```
C:¥oracle¥product¥10.1.0¥Client_1¥sqlplus¥admin¥glogin.sql
```

あたりに書いておくと、起動毎に読み込まれる。

実行時に変数をセット

& を使う。&& を使うと、一旦セットした値を使い続ける。

```
SQL> run
  1 select * from users
  2* where user_id = &uid
uid に値を入力してください: 'guest'
旧   2: where user_id = &uid
新   2: where user_id = 'guest'
```

SQL バッファ

SQL*Plus は最後に実行した SQL 文をバッファに保存しており、以下のコマンドで操作できる。

コマンド	内容
append	行末にテキストを追加
change	文字を変更する
clear	バッファクリア
del	行を削除
input	行を追加
list	バッファの内容を表示
iist n	n 行目を表示
run	コマンドを表示後、実行
/	コマンドを実行
n	n 行目を現在行に
n テキスト	n 行目を上書き
0 テキスト	先頭にテキストを挿入

ファイルの使用

コマンド	内容
save	バッファの内容をファイルに保存 replace(置き換え) append(追加)
start または @	ファイルを実行
edit	エディタでファイルを編集
get	ファイルのコマンドをバッファにロード
spool	画面の結果をファイルに出力

処理結果を HTML でレポート

```
SQL> spool c:%test.html
SQL> set markup html on
SQL> select * from dba_tablespaces;
      :
      SELECT 処理
      :
SQL> set markup html off
SQL> spool off
```

```
SQL> ho c:¥test.html
```

SQL 系

アクセスパスを表示

```
SQL>set autotrace on
```
